

環境学習みえ

2013年12月／三重県環境学習情報センター（四日市市桜町3684-11）年4回発行

表紙の人／（左から）森本 和博さん 奥村 加奈さん 栗田 忍さん 藤岡 肇さん（味の素株式会社 東海事業所） 2013 No.55



街の中のオアシス
～味の素 バードサンクチュアリ～

味の素 バードサンクチュアリ ～野鳥のオアシス～

四日市コンビナートの工業地帯に位置する「味の素バードサンクチュアリ」。夏はサギ類の集団繁殖地、冬はカモ類の越冬地として、ここには一年を通じさまざまな野鳥が集まります。



サンクチュアリとは？

野生生物の生息地の保全を目的とした場所です。

1981年に日本野鳥の会が設置した「ウトナイ湖サンクチュアリ」が日本で初めてのバードサンクチュアリとして知られています。

バードサンクチュアリは生息地の保全だけでなく、訪れた人がその自然と触れ合える場所としても注目されています。

工場緑地が「野鳥の聖域」に

「味の素バードサンクチュアリ」の敷地面積は、約1万3千平方メートル。大きな池は事業所創設時に隣接河川の護岸工事と防排水としての継続的給水によって形成されたものです。

操業開始とともに「森の工場づくり」の取組みとしてアカシア、ユーカリなどの木が植樹されました。その後も工場内の緑化が進められ、次第に野鳥をはじめとする生き物が集まる場所になりました。

そして平成14年「味の素バードサンクチュアリ」としてオープンし、工場と自然の「共生」を目指した取組みが始まりました。平成24年に行った専門家による動植物調査では、1年間に約38種類の野鳥が確認されています。

バードサンクチュアリができる前のようす 操業開始頃(昭和37年)



▲当時の池周辺は草原で樹木は生えていない状態でした。

現在のバードサンクチュアリ全景



▲池周辺には少しずつ緑が増え、それとともに生き物も集まってきました。

お話を伺った人

味の素株式会社 東海事業所

住所：四日市市日永1730番地



総務部

もりもと かずひろ
森本 和博さん

ふじおか はじめ
藤岡 肇さん

「味の素バードサンクチュアリ」の取組みは平成15年、「野生生物保護功労者表彰」、「三重県環境功労賞」を受賞しました。現在も地域の環境保全および生物多様性への取組みの一環として、バードサンクチュアリの整備を行っています。

そこで今回は味の素株式会社 東海事業所の方に「味の素バードサンクチュアリ」の魅力と保全活動についてお話を伺いました。

カモの越冬地

冬のバードサンクチュアリは、越冬のために渡ってくるカモの休憩地です。

水面に浮かんだり、くちばしを羽の中に突っ込みながら休んでいる姿は、可愛らしく見えて心が和みます。夜行性のカモは、昼間はこのバードサンクチュアリの池で過ごし、辺りが暗くなると川や田んぼなどへ、エサを食べるために飛び立っていきます。そして明るくなったら再びこの池へと戻ってきます。

このような生活パターンをするカモにとって、バードサンクチュアリは昼間、休憩する安全な場所です。

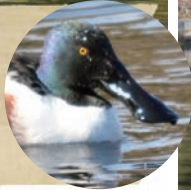
▼エサを食べるコガモのペア
カルガモ、マガモ、コガモなどは逆立ちになって水草などを採食します。



池にやってくる、代表的なカモ

ハンビロガモ 左:メス 右:オス

ほとんどは冬鳥として渡来し、主に池や湖で越冬するカモ。このシャベルのように広がった長いくちばしで、水面付近のプランクトンなどをこして食べる。



冬のバードサンクチュアリ

冬の池を彩るカモ

ほとんどのカモ類のオスが、美しい繁殖の羽へと抜けかわるのは、秋も深まる頃からです。首を伸ばしたり縮めたりなどして、メスへの求愛行動をします。繁殖期の冬の間には、仲良くペア(つがい)になって行動する姿も観察することができます。

地味な羽色をしているメスは、種類を見分けるのがとても難しいのですが、オスの羽色の特徴を覚えておくと、この時期は一緒にいることが多いので種類がだいたいわかります。

このバードサンクチュアリで寒い冬を越したカモたちは、春の早い時期には再び繁殖のために北の方へと飛び立っていきます。繁殖地では産卵の頃から、オスはメスから離れていき、抱卵(ほうらん)や子育てはメスだけで行います。

カモの仲間



コガモ

カモの仲間では小さい部類。体はハトより少し大きい。秋から春頃まで見られる冬鳥。



カルガモ

全国的に繁殖していて、三重県では年中見ることができる留鳥。ほかのカモとは違って、オスとメスは同じ羽色をしている。



ヒドリガモ

バードサンクチュアリでは、ヒドリガモ(冬鳥)も確認されている。写真は両方とも繁殖羽のオス。

バードサンクチュアリに集まる野鳥たち



「オオタカ」カラスくらいの大きさで、冬場は平野部でもよく見られる。バードサンクチュアリにいるカモやサギ、小鳥類を狙って、オオタカのほかに、チョウゲンボウやノスリなどの猛禽類(もうぎんるい)がやってくる。

①「セグロセキレイ」留鳥。地上を歩いてエサをさがす。②「カワセミ」留鳥。ダイビングして水中の狙った魚を捕まえる。③「ヤマガラ」留鳥。カラフルな色が目を引く小鳥。④「ツクミ」冬鳥。はねて可愛らしく歩く。

サギの子育て

春になるとバードサンクチュアリでは、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギなどのサギ類やカワウが集団繁殖地(コロニー)を形成します。

メスだけが子育てをするカモとは違って、サギの子育てはオスも協力して行います。産卵後抱卵は1か月ほど続きますが、片親が抱卵の間、もう一方は川や河口へエサを食べに行きます。誕生してからもひなのためにエサをとりに行くのはオスとメス、両方の役割です。ひなは徐々に飛べるようになり、夏には親元を離れ巣立っていきます。

▲アオサギの交尾
集団で繁殖することで、外敵に対して集団防衛することが出来ます。コロニーが大きいほど、鳥にとっては安全です。



春から夏にかけてのバードサンクチュアリ



三重県内では繁殖地が少ないサギ チュウサギ (県絶滅危惧Ⅱ類)

日本へ渡り、繁殖する夏鳥。三重県レッドデータブック2005によると、チュウサギの既知の集団繁殖地の数は10以下とされている。(写真はチュウサギのひな。バードサンクチュアリで森本さんが撮影。平成25年6月。)

チュウサギの貴重な繁殖地

日本のサギ類のなかでも最も大きい部類のアオサギは、翼を広げると1.6メートル程あるそうです。大型のサギは、ある程度高い木に営巣するので、この池周辺のユーカリなどの背が高く丈夫な木々を利用して営巣しています。

春に渡ってくるチュウサギの集団繁殖地は、県内ではわずかし確認されていません。ここは樹林のそばに池があり、工場敷地内ということもあつて、ほかの外敵が近づきにくくなっています。安全な場所であるため、チュウサギの希少な繁殖地になっていると考えられます。

また味の素では、バードサンクチュア리를、たくさんの人に訪れてもらいたいと、今年度から個人の見学受付と土曜日の見学対応を始めました。

藤岡さん「バードサンクチュア리를特に喜んで見てくれるのは、子どもさんたちです。子どもたちに見せてやりたいという気持ちで家族連れの方々もたくさんいらっしゃいます。」

池の隣に設置された観察小屋では、野鳥を観察できるほか、チュウサギの巣や孵化した卵の殻なども展示されています。バードサンクチュアリは地域の環境教育の場としても広く活用されているのです。

「味の素バードサンクチュアリ」へ行こう!

双眼鏡や望遠鏡を使って、野鳥を観察してみよう。また四季折々の美しいバードサンクチュアリのようすを映像で観ることができます。

「ほんたしん」工場を見学することもできます!(稼働時のみ)

バードサンクチュアリの昆虫たち



①「チョウトンボ」ひらひらと飛ぶ姿がチョウのように美しいトンボ。
②「ショウジョウトンボ」成熟したオスは全身真っ赤になる。
③「ゴマダラチョウ」エノキの木に産卵し、幼虫はエノキの葉っぱを食べて成長する。

見学可能日

平日、土曜日 ※お問合せください
午前の部 10:00~11:30
午後の部 14:00~15:30

各回30名
(定員になり次第締切)

事前予約制・先着順 見学日の3か月前から5日前まで予約可能。

●個人(10名以下)インターネットにて予約受付
<http://www.ajinomoto.co.jp/kfb/kengaku/>

●団体(10名以上)電話にて予約受付
味の素 東海事業所 Tel:0120-170-153(平日のみ)



お申込み方法

▶フン害で真っ白になった樹木
フン害による土壌の悪化は深刻な問題です。魚を食べるサギ類やカワウのフンは、酸性が強い
ため樹木が枯れてしまいます。



バードサンクチュアリの 維持管理と課題

平成24年、サギ類とカワウの個体数増加によるフン害と悪臭の問題が発生しました。バードサンクチュアリの環境を適正に維持管理していくためには、サンクチュアリの規模に応じた個体数の抑制を図る試みが必要です。今年試験的に、繁殖期に入る前から樹林への防鳥テープの設置や、忌避剤の貼付などを行いました。さらにバードサンクチュアリオープン当初から制限していた社員の立ち入りを、定期的に人が出入りするように変更しました。こうすることで、適正な個体数を保つよう努めます。



▲フン害によって枯れた樹を伐採して、植樹会を開催しました。社内の呼びかけで集まった社員とその家族など約50名が参加しました。

また調査によって、樹林に囲まれた池の中では、アメリカザリガニやウシガエルなどの外来生物が確認されています。

森本さんは「今後は池の環境を改善して、在来種を中心とした生態系づくりを目指していきたい」と話してくれました。

今回、誌面に掲載されている野鳥や生き物の写真は、これまで社員の方が撮りためたものです。これらの写真からは、バードサンクチュア리를訪れる生き物たちを見守り続けてきた温かい視線を感じることができ、バードサンクチュアリの環境は維持されていくことでしょう。

街の中に緑を増やそう

一年を通してさまざまな野鳥が集まる「味の素バードサンクチュアリ」。ここで大切なのは四日市コンビナートの工業地帯のなかに、生き物が集まる緑地があるということです。工場周辺には、公園や神社などの緑地が点在しており、それぞれが野鳥にとってオアシスのような役割をしています。「味の素バードサンクチュアリ」もそのひとつです。

野鳥は一生を同じ場所で過ごす生き物ではありません。長距離の渡りをしたり、緑地と緑地を渡って移動したりしています。

例えば実のなる植物を植えれば、その実を食べに野鳥がやってきます。このように広い場所がなくても、庭やベランダなどのわたし

たちの身近にも野鳥を呼ぶことはできるのです。

こうして街の中に少しでも緑地が増えることで、野鳥や昆虫などが集まる環境をつくりだすことができます。いろいろな生き物が住める環境は、わたしたち人間にとってもよい環境だといえるのではないでしょうか。

生き物の視点で街の中の環境を見直したとき、緑地のひとつひとつを結んでいき、小さな生き物も移動できる線「グリーンベルト」をつくっていくことが重要だといえます。

写真提供 味の素株式会社 東海事業所

地域で活動されている方の参考に!

野鳥などの生き物との共存についても考えるきっかけに!

参加費 無料

スキルアップ講座

企業の取組から学ぶ ～バードサンクチュアリ見学会～

協力:味の素株式会社

平成26年
日時 **4月12日** 10:00~12:00

工場敷地内の「バードサンクチュアリ」の取組や課題について、お話を伺います。そして、サンクチュアリのようすを見せていただきながら野鳥を観察します。

会場 **味の素株式会社 東海事業所**
(四日市市日永1730番地)

対象 ◇環境学習指導者養成講座の受講者
◇自然環境の保全や生物多様性の保全に関心のある方

募集人数 **20名**(18歳以上の方)
※申込多数の場合は抽選。その際、三重県在住の方を優先

サギやカワウの子育ての
ようすが観察できるかも!

締切
3月15日

お問合せ・お申込み
環境学習情報センターまで



紀北町役場 「ごみ・リサイクル講座」



平成25年10月25日(金)

この度、紀北町役場より、「ごみ・リサイクル講座」と「買い物ゲーム」を合わせた内容で出前講座の依頼を受け、私、清水が行ってきました。

海・山が大変きれいで自然豊かな紀北町なので、ごみなど無縁に見えます。しかしごみ問題はどこの地域でも苦慮されているようです。今回の講座を企画していただいた町役場の担当の方も『ごみを減らしたい』との思いから、三重県環境学習情報センターに声をかけていただきました。この講座に集まった参加者は、町の呼びかけに応じた24名

の方々です。

『ごみ・リサイクル講座』では、三重県のごみの現状や、家庭から出るごみの減量、3Rなどについてお話ししました。

私がいろいろな機会に、『3Rで一番大切なのはどれ?』と質問すると、子どもも大人もたいてい『リサイクル』との答えが返ってきます。しかし、リサイクルするには大変なエネルギーを必要とします。

ではどうすればいいのか、講座ではリデュースという考え方を勧めています。『必要ないものを買わないことです。それが家から出るごみを減らすこ

とになるのです。』とお話しました。

さらに今回は、買い物の際に一緒に買ってくるごみの量を体感してもらうために、「買い物ゲーム」も行いました。

最後に参加していただいた方から『こんないい講座、もっと多くの人が聞くべきや!』と言っていたきました。私たちはこのような言葉があるから頑張れるのです。

なお、「ごみ・リサイクル講座」は、ビデオやクイズを入れた子ども向けの講座もできます。これからも講座のご利用をよろしく願います。

【報告】 環境学習推進員 清水英喜

環境学習推進員の清水英喜が担当しました!

今日は、ごみについてお話しします。



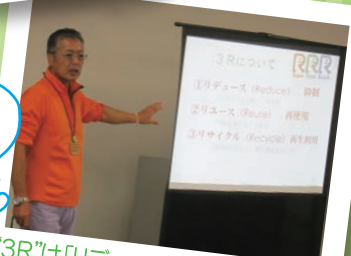
今回は大人向けにお話をさせていただきました。

こっちを買った方がいいのかな?



「買い物ゲーム」は模擬スーパーマーケットでの買い物を通して、家庭から出るごみについて考えるゲームです。

「リデュース」が一番大切です!



“3R”は「リデュース」ごみを出さない、「リユース」再使用、「リサイクル」再生利用の3つの言葉です。

センターでも、県内各地への出前でも、
どちらでも開催可能です!

社会見学の時に、あるいは学校の授業、市民団体の学習会、公民館の講座、企業の環境学習に「環境・体験講座」をご利用ください。

「ごみ・リサイクル講座」

- 時間 45分程度～(応相談)
- 人数 10人～(学年・全校も対応可能)
- 対象 小学生以上

環境・体験講座

水質チェック、買い物ゲーム、大気調査講座、ふろしき活用講座、紙すき体験、地球温暖化防止と省エネルギー講座、自然体験(自然観察、星のはなし、バードウォッチング、水生生物調査)、エコソング「うたおう&おどろう」など

◎講座の内容や対象については、環境学習情報センター Tel(059)329-2000までお問合せください。お申込みは原則、希望日の1か月前までをお願いします。



主催：三重県環境学習情報センター 後援：三重県教育委員会

入賞作品が決定しました!

小・中学生の部は447作品、高校生・一般の部は169作品、合わせて616作品ものご応募をいただきました!ありがとうございました。

厳正なる審査の結果、入賞した作品を発表します。入賞作品は県内各地をまわり、展示いたします。

入選・佳作作品はホームページでご覧いただけます。

かんきょう絵手紙

～届けよう!私のちょっとエコ～

自然・地球環境・環境汚染・ごみリサイクル・省エネルギーなどをテーマにみなさまから「かんきょう絵手紙」を募集しました。

小・中学生の部

最優秀賞



三重郡川越町 小6
やすだ ひかり
安田 光里

優秀賞



明和町立齋宮小学校 6年
たきがわ かな
瀧川 佳那

高校生・一般の部

※敬称略

最優秀賞



県立飯野高等学校 1年
うえむら みちよ
植村 理代

優秀賞



四日市市
匿名

「かんきょう絵手紙」ホームページ
http://www.eco-mie.com/kouza/25/etegami_sakuhin/index.html

環境活動のPRができる!

今月の企画展示

平成26年度
出展者募集中!



6月

特定非営利活動法人
うにの郷クラブ

明和町、玉城町、伊勢市にまたがる大仏山を拠点に、大仏山の山麓を巡る歴史古道の再生や散策路の整備、里地里山の保全など、里山づくりに取り組んでいます。



7月

三重大学環境ISO学生委員会

学生の視点から学生及び地域住民の環境マインドの向上を促すことを目的とした団体です。学内での3Rや緑化活動、清掃活動のほか小学校での学習会なども行っています。



8月

三重クモ談話会

クモに興味をもつ人やクモについて知りたい人をひとつの仲間として結びつけ、情報の交換や採集調査を楽しみながら、三重県のクモ類研究の発展を図ることを目的とした団体です。



9月

株式会社東芝 四日市工場

パソコンや携帯電話などの半導体メモリ製品を作っている工場です。四日市工場の環境に配慮した最新設備や環境活動についてパネルなどを展示していただきました。



10月

花王株式会社

キッチンやバスルーム、洗面所など、生活の中で使う製品を作る会社として、くらしに役立ち、環境にも配慮したモノづくりをめざし、よりエコな活動を進めています。



11月

特定非営利活動法人
緑の会羽津

市民が利用する公園を自らの手で維持管理するとともに、遊びながら学べる場を提供し、自然環境の保全、青少年の健全育成及び世代間の交流に寄与することを目的とした団体です。

三重県環境学習情報センター 講座NEWS

詳細・お申込み方法については、ホームページ・チラシをご覧ください

PICK UP 環境リーダーを養成する講座がお近くで開催できます。

学校の先生の場合

地域NPOの場合

自治体の場合

2～3時間の研修にご利用ください。

メンバーのレベルアップにご利用ください。

市町での環境活動を増やすきっかけ作りにご利用ください。

主催講座を出前講座としても実施できます。詳しくはお電話下さい。

環境学習指導者養成講座 ESDシリーズ
環境学習リーダー養成講座
～アクティビティ体験コース～ 平成26年
1月11日(土) 開催

会場	サン・ワーク津 研修室	締切	※先着順で受付
内容	ESD(持続可能な開発のための教育)の参加型プログラム(アクティビティ)を体験し、ファシリテーター養成コースにつなげます。		

スキルアップ講座 生態学シリーズ
「利己的な遺伝子～遺伝子からみた行動の進化～」
平成26年2月8日(土) 開催

会場	三重県総合文化センター内	締切	1月9日(木)
内容	⑤雄と雌 ※①②③④は終了しました		

環境学習指導者養成講座 ESDシリーズ
環境学習リーダー養成講座
～ファシリテーター養成コース～
平成26年2月1日(土)、2月15日(土)、2月22日(土) 開催

会場	サン・ワーク津 研修室	締切	1月14日(火)
内容	地域や学校、職場で参加体験型の学びをコーディネートし、ESDの考え方を広める担い手を養成します。		

スキルアップ講座 企業の取組から学ぶ
～バードサンクチュアリ見学会～
平成26年4月12日(土) 開催

会場	味の素株式会社 東海事業所	締切	3月15日(土)
内容	工場敷地内の「バードサンクチュアリ」の取組や課題について、お話を伺います。そして、サンクチュアリのようすを見せながら野鳥を観察します。		

環境講座 バードウォッチング～冬編～
申込先:三重県上野森林公園
平成26年1月12日(日) 開催

会場	三重県上野森林公園	期申込	12月6日(金)～12月27日(金) ※先着順で受付
内容	上野森林公園、日本野鳥の会三重との共催です。冬の野鳥の様子を観察します。メジロ、カラ類、カモなどが観察できると思います。		

環境工房 アオツルを使った籠づくり
平成26年4月5日(土) 開催

会場	三重県環境学習情報センター	締切	3月1日(土)
内容	自然環境とツルとの関係のお話と、アオツルの特性を活かした籠をつくります。		

きらら環境アカデミー
セミナー いのちと環境を考える!
第2回のテーマ《3R》 平成26年3月23日(日) 開催
会場 三重県環境学習情報センター

今だから、今だからこそ命の大切さを考えよう!
今だから、今だからこそ命の重みを感じよう!
今起きているさまざまな環境問題に、どう向き合うか、そして今自分に何ができるか、何をすべきか考えよう。
このセミナーでは、「いのちと環境問題」について、各回テーマを定め、講座・体験・展示等を行います。

- ◆講座「循環型社会づくりに向けて～3Rの視点から～」
講師:山川 幹子 氏(特定非営利活動法人 愛知環境カウンセラー協会ほか)
申込み 氏名・学年・住所・電話番号をセンターまでご連絡ください
- ◆「ふろしき・包み方体験」
- ◆DVD上映「みんなでめざそう“ごみゼロ社会”」(約14分)
- ◆展示「心つつんで ふろしき展」 監修:山川幹子 氏

消耗品無料キャンペーン

通常、出前講座では、使用する消耗品のご用意を主催者様にお願いしておりますがこの期間限定で、「水質チェック」で使用するCOD/パケットテストや試薬などの消耗品をセンターが無料でご用意いたします! 出前講座はすべて旅費・講師料とも無料、三重県内どこでも出向きます。この機会にぜひ、ご利用ください!

☆無料キャンペーン期間
平成26年1月10日(金)～3月15日(土)

☆水質チェックとは…

私たちの出している生活排水の汚れぐあい、CODパケットを使って測定し、川や海を汚さないために自分たちに何ができるかを考える体験学習です。このキャンペーンを利用して、ぜひお申込みください。



講座予定

三重県環境学習情報センター

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11

Tel	(059) 329-2000
Fax	(059) 329-2909
Mail	info@eco-mie.com
HP	http://www.eco-mie.com
休館日	年末年始(12月29日～1月3日)
開館時間	午前9時～午後5時30分
入館料	無料 ※お気軽にお越し下さい



Facebook @eco_zou

